



# 山崎小だより

八雲町立山崎小学校

令和2年6月2発行



## 『考えること』について考える！ ～主体的・対話的で深い学び～

とても寒い日が続いた5月でしたが、好天になるとたちまち強い日差しが照り付けてきます。39日間の臨時休業期間を経て、昨日から学校が再開しました。全国的には分散登校の学校がある中で、本校が通常の6時間授業を実施できることはとても幸せなことだとしみじみと感じています。

さて、4月から新学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」が導入され、子供たちに「主体的に考える力」の育成が求められています。「哲学対話」の実践者である梶谷真司先生（東京大学大学院教授）によると、「考える」とは「対話」することで、自分との「対話」が思考であり他者との「対話」が「考える」だそうです。「哲学対話」では、8つのルールを設けて対話します。参加者は、自分が「問う」ことで相手や自分の考えが深まったり対話が盛り上がりたりするので、質問することがよいことだとわかります。ですから、相手の話をよく聞き、よく考えます。そうすると自分の考えをきちんと伝えたいくなります。このように「問う」「聞く」「考える」「語る」というサイクルが「対話」をつくります。梶谷先生は、学校で「考える」ことを教えるために大切なことが2つあると言っています。一つ目は「疑問を大事にすること」。学習内容について、自分たちが疑問に思ったことの何について考えたいのかを選び、それぞれがその問いについて考えることが主体的な学びになります。二つ目は「到達点を決めないこと」。到達点が無ければすべての子供が前に進んだ分だけプラスの評価になります。また、到達点が無いので、「問うて答えて、また次に問いが出てくる」という本来の問いと思考の関係ができあがり、思考力がつくそうです。

マスク着用の新しい生活様式の中で、熱中症にも気を配りながらの学校生活となります。子供たちが、豊かな体験をとおして、自分で興味をもち、疑問に思うことを考えることが楽しい学校、たくさんの問いと対話にあふれる学校となるように職員一同頑張っています。

【哲学対話の8つのルール：①何を言ってもよい。②人の言っていることに対して否定的な態度をとらない。③発言せず、ただ聞いているだけでもよい。④お互いに問いかけるようにする。⑤知識ではなく、自分の経験に即して話す。⑥話がまとまらなくてもよい。⑦意見が変わってもよい。⑧分からなくなってもよい。～教職研修2020-5「学校で『考える』ことを教える」ことを考える 参照】

### 避難訓練！！～自分の身は自分で守る！

5月26日火曜日に「地震による津波」を想定して避難訓練を実施しました。当日は、コンピュータールームにいた子供たちは落ち着いた態度で避難していました。駐車場集合までの避難時間は、昨年より10秒も早い30秒。自動車に乗り込むまでは54秒でした。

### 勾玉（まがたま）作り！！

6年生は歴史学習に取り組みます。勾玉について、解説してから作業を始めました。石を磨きながら「河原の石でもできるのかな？」「昔の人は、どうやって磨いたのかな？」などいろいろな思いを巡らせながら取り組みました。



### たくさん植えたよ！～畑の学習～

今年の子供農園はバラエティーに富んでいます。ジャガイモ、スイカ、イチゴ、メロンやトウモロコシ、枝豆などを植えました。



### 資源回収 御協力 お願いします！

6月14日日曜日に山崎青少年健全育成会で資源回収を行います。（予備日：6月21日）今年度は、年間1回の活動となります。御協力をお願いします。

### 地域の皆様のお力添えに感謝申し上げます！！

今年もPTAと山崎青少年健全育成会の皆様からマリーゴールドを寄贈していただきました。また、前庭と畑を耕し、グラウンドに除草剤を散布していただいたり、手作りマスクを届けてくださったり、学校前の道路の除草をしてくださったりするなど、地域の皆様の御助力のおかげで子供たちが素晴らしい環境の中で学習できますことに心から感謝申し上げます。